



伊藤ひろし県議会報告

発行／伊藤ひろし千葉県議会議員事務所

〒275-0026 習志野市谷津2-1-15 電話047(779)3385

市政と県政の架け橋

安心安全

施設利用と道路交通

1. 国際総合水泳場
2. 県道長沼船橋線
3. 習志野市屋敷バス通り
4. 【現地調査】

「習志野 ずっと住みたいまち計画」を掲げる、私伊藤ひろし(習志野市選出・1期)は、コロナ禍でも現場主義を貫き、県議会でも市民の命を守る・安心安全なまちづくりに向けた改善提案に取組んでおります。

今議会報では、前回(議会報告第8号)に続き、私の一般質問の内容を報告させていただきます。

海外アスリートなど年間約50万人利用者の安心



プラッツ習志野で県政報告を行う

国際総合水泳場(新習志野)設備の劣化度調査・計画的な保全を

伊藤ひろし

習志野市には、屋内水泳場であり、かつ国際大会をはじめ、各種競技ができる千葉県国際総合水泳場がある。昨年度はオリンピック・パラリンピックにおいて日本代表男子水球チームやオランダ選手団の事前キャンプに利用された。一般県民の利用者も多く、県民にとつてなくてはならない施設である。これまで県においては施設運営に必要な設備の改修が行われてきたが、当施設は平成8年のオープン以来、既に26年が経過し、施設の経年劣化が進んでいる。このため、計画的な保全を確実に行うことが重要である。

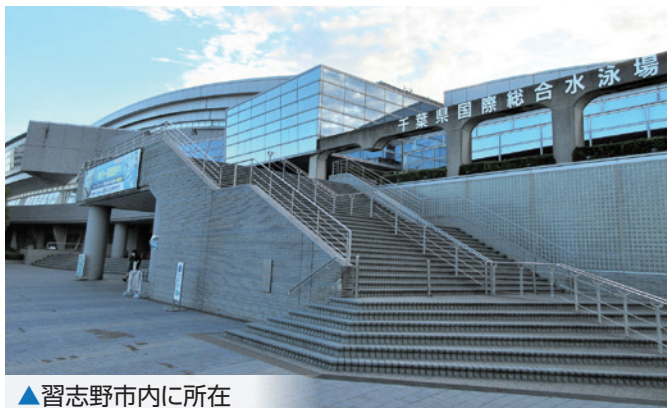
熊谷知事

当施設は、開設から26年が経過しており、水のろ過装置など運営の根幹に関わる設備が故障した場合、施設を休止せざるを得なくなり、利用者にとり不便をおかけするとともに、事業者への補償が必要となるなど、多大な影響が生じる恐れがあります。そのため、今年度、専門家による設備などの劣化度調査を行う

要望

伊藤ひろし 私の現地調査では、雨漏りなどの老朽化による設備の故障が目に生じていることを目にした。また、着替え室のシャワーからお湯が出ないなどボイラー施設の老朽化も発生していると利用者から改善を求める声を何度も耳にしている。

施設の管理者からもよく状況を確認していただき、計画的な保全を進めるとともに、必要な対策については、短期的な対応を確実に実行していただくことを要望する。



▲習志野市内に所在



▲稼働30年近いボイラー



▲温水の配管



▲施設内に複数箇所の雨漏り

登壇の録画中継をインターネットからご覧いただけます。

伊藤ひろし 110 164

検索



録画中継

をクリック

伊藤ひろしプロフィール

□ 略 歴 □

- 1975年 10月生まれ(47歳)
- 1994年 東海大学付属望洋高校卒
- 1998年 東海大学政治経済学部卒
- 2007年 習志野市議会議員当選(3期)
- 2019年 千葉県議会議員当選

□ 現 職 □

- 県議会 総務防災常任委員会副委員長
- 千葉県環境審議会
- 習志野市健康福祉センター運営協議会委員

□ 資 格 □

- 中学・高校教員免許、防災士

交通安全対策の推進

生命尊重

交通事故ゼロ社会の構築

伊藤ひろし
県道長沼船橋線は、複数の小中学校が立地しており、朝夕を中心として児童生徒の利用が大変多くなっている。しかし当該区間では歩行空間が狭いなど、自動車交通量の多い中を児童生徒が危険にさらされながら利用している。さらに側溝は蓋のガタツキや段差・隙間が生じており、歩行者やベビーカーなどの安全な通行に支障を来している。

県土整備部長
県道長沼船橋線の習志野市実籾から藤崎地先までの3キロメートルの両側の歩行空間を、安全で快適

とするため、平成25年度から、段差が生じにくく隙間の少ない側溝蓋への交換などを進めています。これまでに西側の1.8キロメートルと、それに続く0.6キロメートルの片側の歩行空間において対策が完了し、今年度は同区間の残る片側について完了させる予定です。引き続き、早期完了に向けて、残る東側の0.6キロメートルにおいて対策を進めてまいります。



実籾〜藤崎3キロメートル区間 歩行者道の安全対策を急げ



▲屋敷バス通り
市境を跨ぎ、警察署の管轄で規制速度が変わる路線

警察本部長
ご指摘の路線について現在、40キロメートル毎時の速度規制を実施しているところであり、路線全体を通じて中央線が設けられた2車線道路であること、区間内には歩道が整備されていること、一定の通行機能が求め



伊藤ひろし
習志野市屋敷を通過するバス通りは、千葉市花見川区の幕張本郷方面へと至る道路である。広域的には主要地方道長沼船橋線と国道14号や京葉道路などと結ぶ重要な路線でもあるため幅広く多くの方が利用する。一部の区間においてはカーブにより見通しが悪い場所、坂道により速度が出やすい場所などがあることから交通事故の発生が懸念される。加えて近年ではマンションなど住宅整備が進み、地元小学校の通学路にも指定されている。現在、このバス通りの習志野市区間については最高速度40キロメートル毎時の速度規制

がかけられているが、同じ路線の千葉市区間には最高速度30キロメートル毎時の速度規制がかけられており、市境を跨ぎ警察署の管轄区域が変わると速度規制が変わる不思議な路線である。

伊藤ひろし
警察が危険と認識している箇所に対しては、道路管理者と安全対策を進めていただくとともに、通学路における児童の見守り活動や、交通取締りによる横断歩行者の保護活動など、警察にしかできない対策に積極的に取り組んでいただくことを要望する。

通学路バス通りで児童の事故発生 規制速度の引き下げを

られる路線であること、規制速度と実勢速度が概ね一致していることなどから、警察庁が示す「交通規制基準」に照らし、現行の速度規制は適正なものと考えております。

14 海の豊かさを
守ろう

現地調査

菊田川の水環境保全

“海を健全に守る都市「習志野」”
～日本をリードするまちへ～



▲不法投棄物や河川流出物を調査

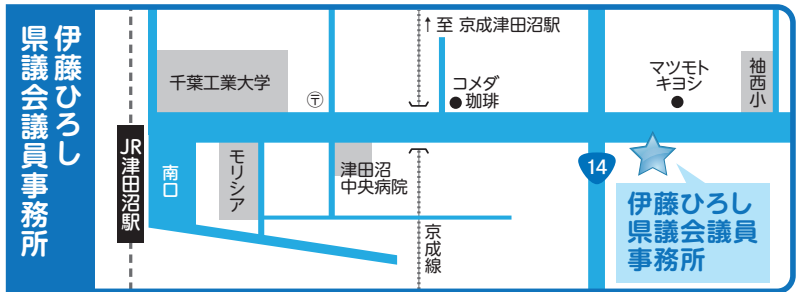


▲専門業者による堆積土などの撤去

習志野市は、昭和40年代から“自然との共生”をまちづくりの構想とし、一貫して取り組んできた歴史があります。昨今、国連が憲章する持続可能な開発目標(SDGs)の取組みに強化する自治体が増えてきましたが、地球を守る取組みは、習志野市のまちづくりの歩みとも言えます。

海の恩恵を得ながら生きる日本人、海に隣接した土地で暮らす私たち習志野市民は、海の水質環境の保全に向けた「暮らし」や「活動」が命題であります。

海につながる河川の水環境保全は、千葉県の管轄であります。県議会議員として習志野市のまちづくりの柱を担う重要な役割を自覚して活動しています。



引き続き、“習志野 ずっと住みたい まち計画”をスローガンに、世界一の都市創造に向けた一環「市民の命を守るまちづくり」に向けて活動していく所存です。皆様のご指導を宜しくお願い致します。

伊藤 寛